

ユニセフ T・NET 通信

2011 WINTER

No.47

財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034

Email: se-jcu@unicef.or.jp ホームページ http://www.unicef.or.jp

募金口座▶郵便振替: 00190-5-31000 (財)日本ユニセフ協会 (送金手数料免除 ※窓口振込のみ)



公平性に焦点を当てた ユニセフの新しい戦略

ユニセフは2010年9月7日、ミレニアム開発目標に関する2冊の最新の報告書『目標達成のための格差の是正(Narrowing the Gaps to Meet the Goals)』と『子どもたちのための前進：公平性のあるMDGsの達成をめざして(Progress for Children: Achieving the MDGs with Equity)』を発表しました。そして、最も困難な立場に立たされている子どもたちやコミュニティへの支援を最優先すること、つまり公平性に焦点を当てることで、より迅速に、そして、より費用対効果が高く、ミレニアム開発目標(MDGs)に近づくことができると指摘しました。公平性を重要視したユニセフの新戦略とは、一体どのようなものなのでしょうか。

©UNICEF/NYHQ2009-1472/Holt

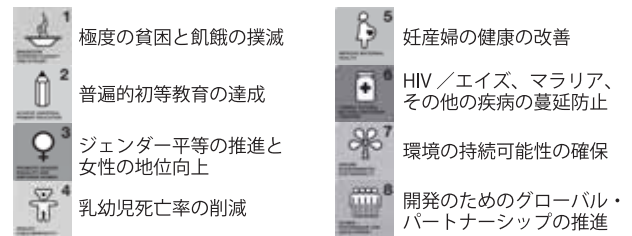
広がる格差 ～目標達成への厳しい現実～

MDGs達成のための国際的な取り組みにより、これまで様々な分野で、大きな前進が見られました。2010年、5歳になる前に命を失う子どもの数は、1990年の一日あたり34,000人から22,000人に減少しました。これは、各国政府や国際機関などが知恵と力を結集させてきた大変喜ばしい成果です。しかし、目標達成期限の2015年は目前に迫っており、取り組まなければならない課題は山積しています。

ミレニアム開発目標は開発途上国の改善状況を平均値で示します。そのために届きやすい場所、人々へ支援を届けることで結果を出そうとしてきました。しかし、平均値の陰で支援を受ける人々の間に格差が生じていることが指摘されてきました。

富の偏在については、以前から先進国と開発途上国との比較の中で語られることが多くありました。最富裕国20%と最貧国20%の格差は、1960年時点では30対1であったのが、1994年には78対1の割合になり、この格差はますます広がっています。グローバル化により情報・技術の共有などで世界の状況が進展した一方で、その技術力やお金のあふなしで経済格差が広がってきたのです。

ミレニアム開発目標(MDGs)8つの約束



下の図は、国連開発計画が人間開発報告書(1992年度)の中で世界の富の偏在について鋭く指摘したものです。この富の偏在は同じ国の中でも存在し、その格差は広がっています。その格差が子どもの死亡率の格差の拡大につながり、ミレニアム開発目標の前進を妨げているのです。サハラ以南のアフリカはこの傾向が顕著に現れている地域です。



UNDP(国連開発計画)人間開発報告書92年版より作成

2015年の目標達成に向けて全般的に進展が見られる中、多くの国では格差が増大しています。『子どもたちのための前進：公平性のあるMDGsの達成をめざして (Progress for Children: Achieving the MDGs with Equity)』では、下記のようにさまざまな格差の問題が存在することを明らかにしています。

<さまざまな格差の問題>

- 開発途上国において、最も貧しい層20%に生まれた子どもたちが5歳の誕生日を迎える前に命を失う可能性は、最も豊かな層20%に生まれた子どもたちの2倍以上である。
- 社会の中で最も貧しい層20%に属する子どもたちは、最も豊かな層20%に属する子どもたちと比較して、低体重になる可能性は2倍以上。発育障害に陥る可能性はさらに高い。
- 過去10年間にわたり、初等教育におけるジェンダーの不平等の是正には大きな前進が見られたが、開発途上国の女の子たちや若い女性たちは、依然として教育を受ける機会(特に中等教育段階)において非常に不利な立場に置かれている。
- 改善された飲用水の水源を利用できずにいる8億8,400万人のうち、84%が農村部に暮らしている。

例えば、アフリカのナイジェリアでは、5歳未満の子どもが毎年100万人亡くなっています。ナイジェリアの世帯を5分割し、最も豊かな世帯層と最も貧しい世帯層の5歳未満児の死亡状況を調べてみると、最も貧しい世帯層では325,000人、最も豊かな世帯層では72,000人が亡くなっていることが判明しました。また、伝染病の感染率や出産時の訓練を受けた助産師の付き添いの割合などでもこの2つの世帯層間の顕著な格差が認められました。

このことから最も立場の弱い層、つまり最も貧しい人たちに焦点



©UNICEF/NYHQ2007-0342/Christine Nesbitt
ナイジェリアの病院で生まれた赤ちゃん

『子どもたちのための前進：公平性のあるMDGsの達成をめざして (Progress for Children: Achieving the MDGs with Equity)』の日本語版は、下記URLよりPDFのダウンロードができます。

http://www.unicef.or.jp/library/pdf/Progress_for_Children_-_No._9_jp.pdf



を定めて活動を展開しなければ、ミレニアム開発目標の達成にはつながらないことが推測されます。そこでユニセフは、この推測が正しいかどうか実際にシミュレーションをし、検証してみました。【P.3基礎講座で詳述】

ユニセフの新しい戦略 ~公平性とはなにか~

検証の結果、最も貧しい地域や最も取り残された地域を最優先に支援をすることでより多くの子どもたちの命を守ることができることがわかりました。そして、ユニセフは公平性(格差の是正)に焦点を当



©UNICEF/NYHQ2010-1960/Markisz
「最も困難な状況にある子どもたちへの支援を最優先に」2010年9月22日、MDGサミットのパネル・ディスカッションで語るユニセフのアシソニー・レック事務局長

て、最も困難な状況にいる子どもたちへ、より一層の支援を行うことを宣言しました。公平性とは、子どもによって異なる目標達成までの距離を縮めるため、道徳的・政策的に正しい方法で、子どもたちがそれぞれの環境に応じてふさわしく生き延び、教育を受け、保護を受けられるようにすることです。不平等な世界の格差を埋めていくための近道となるのがこの公平性の実現だとユニセフは信じています。

<今回発表された主な調査結果>

- 公平性(格差の是正)に重点を置いたアプローチは費用対効果が高く、他のアプローチと比較して、子どもや妊産婦の死亡数および発育障害数を大幅に削減することができる。
- 死亡率の高い低所得国で、5歳未満児死亡数を削減するために100万米ドルを投資した場合、公平性に重点を置いたアプローチを用いると、現行のアプローチよりも削減できる死亡数がおよそ60%上昇する。
- 疾病や健康への悪影響、非識字といった国の問題が、最も貧窮した子どもたちに集中している。これらの子どもたちに医療や保健、教育などの必須の社会サービスを提供することにより、MDGs達成への歩みを大きく加速することができ、国内の格差を縮小することができる。

妊産婦の死亡率や発育障害、HIVの母子感染の低減や不衛生な環境の改善について、公平性に焦点を当てた施策がより良い結果を生み出すとされた今回の結果に基づき、ユニセフはこのモデルを教育をはじめとする他の分野にも応用させていきます。

公平性に焦点を当てたアプローチ(Equity-based approach)を携え、ユニセフは子どもたちへの支援の歩みをさらに加速させていきます。